

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(平成20年1月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成19年12月分(平成19年12月3日～12月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	3,404	7.40	3.15	↑	12	ヘルパンギーナ	8	0.03	0.05	
2	RSウイルス感染症	453	1.57	-	↑	13	麻疹	0	0.00	0.00	
3	咽頭結膜熱	175	0.61	0.33	→	14	流行性耳下腺炎	38	0.13	1.10	◇
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	335	1.16	1.30	↗	15	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.03	
5	感染性胃腸炎	4,580	15.90	14.09	↗	16	流行性角結膜炎	56	0.74	0.97	◇
6	水痘	702	2.44	2.38	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
7	手足口病	71	0.25	0.23	↗	18	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.05	
8	伝染性紅斑	21	0.07	0.16	◇	19	マイコプラズマ肺炎	22	0.26	0.35	↗
9	突発性発しん	183	0.64	0.64	◇	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	7	0.02	0.03		21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	0	0.00	0.01		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成19年12月分(12月1日～12月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	37	1.61	1.84	◇	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	117	5.57	4.97	→
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.53	→	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	30	1.43	3.28	◇
24	尖圭コンジローマ	9	0.39	0.57		28	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0.14	0.23	
25	淋菌感染症	21	0.91	0.69	→	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 インフルエンザ (414件 3,404件)
急増疾患 RSウイルス感染症 (64件 453件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～14	15,16	22～25	17～21,26～28	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	63	結核(広島市保健所(17),福山市保健所(9),呉市保健所(12),広島地域保健所(9),呉地域保健所(1),芸北地域保健所(1),東広島地域保健所(4),尾三地域保健所(6),福山地域保健所(2),備北地域保健所(2))
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(O145)(1)(福山市保健所) 腸管出血性大腸菌感染症(O26)(1)(広島市保健所)
四類	4	レジオネラ症(1)(広島市保健所), マラリア(1)(広島市保健所) つつが虫病(2)(広島市保健所(1),東広島地域保健所(1))
五類全数	6	アメーバ赤痢(2)(広島市保健所(1),呉市保健所(1)), ウイルス性肝炎(B型)(1)(福山市保健所) クロイツフェルト・ヤコブ病(1)(広島市保健所), 後天性免疫不全症候群(2)(広島市保健所),

3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

広島県内の今シーズン(平成19年~20年)のインフルエンザの流行状況は、第50週(12月10日~12月16日)に、2保健所管内(広島市,東広島地域)で定点医療機関当たりの報告数が注意報の基準である10を超えたため、平成19年12月20日「インフルエンザ注意報」を発令しました。

昨シーズンと比べると約2ヶ月早い注意報の発令となりました。全国的には、平成20年1月9日現在で34都道府県で注意報レベル以上となっています。広島県でも、これから本格的な流行期に入るものと思われ注意が必要です。

予防対策

- ・ 外出時には、マスクを着用し人ごみはなるべく避けましょう。
- ・ 外出先から帰宅したら、うがいと手洗いを励行しましょう。
- ・ 栄養バランスのとれた食事をとり、体調を整えましょう。
- ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50~60%)を保ちましょう。
- ・ インフルエンザかなと思ったら、安静にし、早めに医療機関を受診しましょう。

(2) 新型インフルエンザ対策について

平成19年12月、中国江蘇省南京市で、鳥と接触歴がない人が鳥インフルエンザ(H5N1)に感染して死亡し、さらにこの患者の家族も鳥インフルエンザ(N5N1)に感染していることが確認されたため、人から人に感染する新型インフルエンザの発生が懸念されました。この情報を受け、国はこの地域からの帰国(入国)者に対する検疫を強化しました。

その後、中国政府の調査で、患者の家族以外の濃厚接触者及び同一地域に新たな感染者が見られないことから、新型インフルエンザの発生とは認められず、検疫体制の強化が解除されました。

しかしながら、平成20年1月3日現在で、世界14カ国でインフルエンザ(H5N1)の人への感染が348例(うち216名が死亡)確認されるなど、引き続き、新型インフルエンザ発生の危険性が指摘されています。

新型インフルエンザ対策では封じ込め期の適切な対応が、極めて重要です。

県民のみなさまへ ~インフルエンザ(H5N1)流行地域から帰国された方へ~ 受診の前に **必ず 保健所** へ連絡してください!

インフルエンザ(H5N1)は、世界14カ国で患者発生しています。(H20.1.3現在)

インフルエンザ(H5N1)は、世界14カ国(タイ,ベトナム,インドネシア,カンボジア,中国,トルコ,イラク,アゼルバイジャン,エジプト,ジブチ,ナイジェリア,ラオス,ミャンマー,パキスタン)で患者が発生しています。

【インフルエンザ(H5N1)を疑う症状】

38 以上の発熱 咳や息苦しさなどの呼吸器症状

インフルエンザ(H5N1)流行地域(上記14カ国)から帰国して10日以内(流行地域からの渡航歴のある人への接触があった人を含む。)

上記の症状等が出たら、お近くの保健所に連絡し、その指示に従ってください。

WHOが公表している「インフルエンザ(H5N1)の流行地域」は、随時更新されています。国立感染症情報センターのホームページ(http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html)か、お近くの保健所で確認してください。

「インフルエンザ(H5N1)流行地域から帰国されてから10日間(観察期間)は次のことに注意してください。

朝夕の体温測定を実施し、健康状態を確認する。 外出時は、できるだけマスクを着用する。
発熱、咳などの症状が出たら、最寄の保健所に連絡する。

渡航の際は、インフルエンザ(N5N1)流行地域に関する情報に注意しましょう。